

氏名(本籍)	西川みゆき(滋賀県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第81号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	就業初産婦の母性意識に関する研究 就業志向とアイデンティティとの関連

論文内容要旨

※整理番号	83	(ふりがな) 氏名	にしかわ みゆき 西川 みゆき
修士論文題目	就業初産婦の母性意識に関する研究 —就業志向とアイデンティティとの関連—		
<p>〈研究の目的〉 本研究の目的は、妊娠期における母性意識に対する就業志向とアイデンティティおよびその背景から、仕事を持つ初産婦の特徴を明らかにすることである。</p> <p>〈方法〉 対象者は、妊婦健康診査に来院した初産婦のうち同意の得られた、仕事を持つ初産婦 230 名であった。データ収集方法は、自己記入方式による構成的質問紙調査法を用いた。データの分析には、就業妊婦の背景と就業志向やアイデンティティの発達が母性意識に与える影響を検証するために、強制投入法による重回帰分析を行った。目的変数を母性意識の下位項目「受胎時の不安ととまどい」、「赤ちゃんの存在と生きがい」、「赤ちゃんに対する不安」、「夫や周囲の支援」、「母親の実感」、「身体の不調」、背景、就業状況、就業志向および説明変数とした。</p> <p>〈結果〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「受胎時の不安ととまどい」へは、就業志向の関心性が高く、計画性が低いことが示された。 2. 「赤ちゃんの存在と生きがい」へは、長期間の勤続年数と夫婦関係満足度がより高いことが示された。 3. 「赤ちゃんに対する不安」へは、アイデンティティと年齢がより低いことが示された。 4. 「夫や周囲の支援」へは、夫婦関係満足度がより高いことが示された。 5. 「母親の実感」へは、夫婦関係の満足度が高く、短時間の就業時間、長期間の勤続年数が示された。 <p>〈考察〉 就業妊婦は、胎児との関係性を新たに構築しなければならない時期において、自己の作動性、独自性に向かって自分自身を形成していくとアイデンティティが低くなる。それによって、「受胎時のとまどいと不安」と「赤ちゃんに対する不安」として現れることが明らかになった。また、就業妊婦の就業志向の中でも関心性を安定させ、計画性の向上をもたらすことは「母親の実感」と「胎児の存在と生きがい」を高めることが示唆された。妊娠期における夫婦関係は、二者から胎児を含めた三者関係に変化する移行期である。この時期において就業妊婦は、夫婦関係に満足していることで「夫や周囲の支援」、「母親の実感」、「胎児の存在感と生きがい」をより高める。夫婦関係を充実したものへ援助することは、後の育児期に対しても重要な意義を持つ。</p> <p>胎児との関係との間の葛藤や矛盾に満ちた関係の経験は、自己を再体制化していくことで、女性のアイデンティティ発達を強く特徴づけていると考えられる。妊娠が予定したものであったとしても、就業への計画性が低いということは、今後の見通しが不安定な生活状況が推測され、受胎時のとまどいや不安を高くすると考えられる。就業時間が短いことが母親の実感を強めていたことは、勤務時間の短縮など妊婦の生活時間を意義あるものとして感じられるように援助することが有効であると示唆された。</p> <p>〈総括〉 就業初産婦の母性意識に対する就業志向とアイデンティティの影響を検証し、就業妊婦の特徴が明らかになった。安定した夫婦関係に満足し、妊娠について計画性をもった就業妊婦を対象とした。調査の結果、計画的な妊娠であっても受胎時のとまどいや不安については就業志向からの影響を受けていた。就業妊婦においては、妊娠に対する思いと就業への傾倒との均衡に対して注目していくことは意義がある。妊婦の話を傾聴し、そのプロセスの中で胎児を受け入れ、個と関係性から自己を再体制化していき、自己表現していくことに女性の母性意識の生成について意義があると考えられた。今後も就業妊婦の母性意識に生成過程に着目し、研究を重ねていく。</p>			
<p>〈備考〉 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度) 2. ※印の欄には記入しないこと。</p>			